最終稿（12/17 定例会）

城山エコミュージアム通信

平成２８年（２０１６）１２．１５　第３０号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

テーマ：　平成２８年度城山エコミュージアムツアー紹介

境川流域の自然と歴史を訪ねる

～　町屋から当麻田方面へ　～

境川沿いを歩く（町屋地区裏）

境川（相原地区）

10 月 22 日土曜日少し肌寒い中、参加者・スタッフ併せて 63 名で城山公民館を出発し川尻八幡宮、町屋、広田を経て境川を下り、町屋と縁の深い相原へと歩を進めるツアーを開催しました。

今回のツアーは、城山エコミュージアム運営委員会と交流のある「相原の歴史をさぐる会」とのコラボレーションで、午後の行程はこの会のメンバーが担当し、初めて２つの会が行う企画となりました。

相原はかつて原宿用水と同じく境川から取水した当麻田用水を築き水田に水を引きました。この用水と原宿用水には境川の水をめぐる物語があります。江戸時代の初めに水田から畑地になった当麻田に昭和 8 年再び水田が開かれたのを記念する開田記念碑は、城山（川尻村）出身の加藤武雄によって銘文が書かれました。また、相原と城山（川尻村）ではお嫁にいったり、来りと姻戚関係のある家も多く、相原の正泉寺には川尻村から相原に嫁にいき養蚕・機織りに尽力した阿部クニさんの碑があります。また、この正泉寺の玄関には川尻小学校昇降口が移築され使用されています。

午前は町屋地区、午後は相原地区と、かなり広範囲を歩きました。赤土層をくねくねと蛇行して流れ、田畑を潤し、時に洪水を起こしてきた境川の周辺で生活してきた先人の生活文化を思い描き、境川が育む自然を楽しみながら歩くことができたと思います。また、初めて相原を紹介でき、旧城山町と縁の深いことを勉強できた貴重なツアーでした。（田畑　房枝）

知ってナットク！
しろやま

城	山
検	定

問題　ツアー開催日、境川沿いを歩きながらこの鳥にであいました。さて、これは何という名前でしょう？

今回のトピック

- ■城山エコミュージアムツアー報告
- ■シリーズ養蚕「蚕影神社」
- ■新連載・身近な石造物
- ■城山検定「境川でであった鳥」
- ■城山ミニ図鑑「ウスタビガ」
- ■活動報告、活動予定他

行程表

① 城山公民館
②川尻八幡宮
③広田
④町屋橋
⑤広田のビオトープ
⑥原宿用水取水口
⑦原宿用水架橋
⑧森下自治会館
⑨華蔵院
⑩吉川正衛先生之碑
⑪正泉寺阿弥陀堂
⑫正泉寺
⑬相原八幡宮
⑭みのくち
⑮田通公園
⑯開田記念碑
⑰相原公民館

川尻八幡宮

広田

町屋橋

広田のビオトープ

吉川正衛先生之碑

正泉寺阿弥陀堂

正泉寺

相原八幡宮

再発見 身近な石造物

観音堂の階段を下りた場所にあります

第１回　久保沢観音堂の庚申塔

この庚申塔は、観音堂へ上がる階段の左手に安置されています。数ある石造物の中で大きなもの２基が庚申塔です。庚申待（講）は６０日に１度、１年に６、７回ある庚申（かのえさる）の日を特別な日として、講中の人々は「お籠り」をして眠らずに身を慎み、無病息災や長寿を願ったといわれ、中国の道教に由来すると言われています。

久保沢の人々が今から二百数十年前の享保３年（1718）に建立したのがこの庚申塔です。ひとことに庚申塔といっても、その形は様々です。庚申講の本尊として青面金剛、彫り物としての三猿等が有名ですが、観音堂の２基は阿弥陀像（笠付）です。庚申塔の形には様々ありますが、中でも比較的古い形と言われ、近隣では東京都町田市、八王子市にもあるそうです。城山地区内の庚申塔は、観音堂以外にも幾つかあります。ぜひ歩いて探してみてください。（樋口　孝治）　　参考文献：『相模原市史　民俗編』

★何気ない石造物から、昔の地域の様子が見えてきます。地域を歩きながら、足もとに目を向けてみませんか。
気になった石造物等がありましたら、ぜひお知らせください。

原宿用水取水口

原宿用水架橋

華蔵院

相原・当麻田地区

図 H.Shioya

地名標柱みのくち

田通公園（竣工記念碑）

開田記念碑

城山地区市民文化祭出展

ツアーの結果を紹介しました

開催日：１１月５日（土）・６日（日）

境川自然紹介も展示しました

今年の文化祭は、相原の歴史をさぐる会とのコラボレーションで「境川流域の自然と歴史を訪ねる」と題し開催したツアーの様子をパネル展示しました。会場は見やすい空間でガイドマップを見ながら疑似体験できる展示になりました。（宮崎　紀美子）

市文化財探訪ガイド協力

久保沢・谷ヶ原の魅力を紹介

開催日：１０月９日（日）

大勢の方にご参加いただきました

相模原市文化財研究協議会主催・文化財探訪「城山エコミュージアムを歩く～久保沢地区を中心に～」のガイド協力を行いました。午前の講師は樋口副委員長、午後のガイドを運営委員会有志で久保沢・谷ケ原の魅力をご紹介しました。

シリーズ 養蚕

第８回　蚕影（こかげ）神社（じんじゃ）

蚕影神社

中沢の三嶋神社社殿の左側に蚕影神社があります。いつ頃祀られたか不明ですが、養蚕の盛んだった頃、「大変立派な蚕影さん」として信仰を集めていました。向拝柱の両側に獅子頭、正面にタカの羽ばたく姿、扉上の、庭に桑の葉の散っているところ、その上に波間に浮く舟の姿が彫られ蚕の豊作を見守っています。（津久井郡文化財　神社編）この彫刻は、金色姫の物語が養蚕の始まりとして伝わる蚕影山信仰を表しています。「昔、天竺に一人の女の子、金色姫が生まれた。幼いころ后妃が死に王は後妃を入れたが、後妃は嫉妬深く金色姫を虐待した。ある日姫を獅子吼山に捨てさせたが、一頭の獅子が姫を助け城に帰った。後妃は悔しがり今度は鷹群山に捨てたが、鷹の群れが姫を養い城に帰った。後妃は激怒しさらに海眼山に捨てたが失敗し、四度目に城の奥庭に埋められたが王に発見された。行く末を案じた王は桑で作った靭舟に乗せて海に流した。常陸国豊良湊に漂着し権太夫夫妻に助けられたものの弱った姫は亡くなってしまい、その亡骸は無数の虫となり、クワの葉を与えるとよく食べ繭を作った」という伝説。蚕は熟蚕までに四回の脱皮し、これを眠（みん・とまり）といいますが、蚕の成長段階をシシ眠り、タカ眠り、フナ眠り、ニワ眠りと呼ぶのもこの物語によります。（津久井郡文化財　養蚕と炭焼）現在、中沢の蚕影神社は老朽化した土台などを修繕中ですが、獅子頭、タカの彫刻は例祭の時などに見ることができます。（田畑　房枝）

参考文献（『津久井郡文化財　神社編』）

活動レポート

博物館で活動紹介しました

「学びの収穫祭」に初参加

展示会場

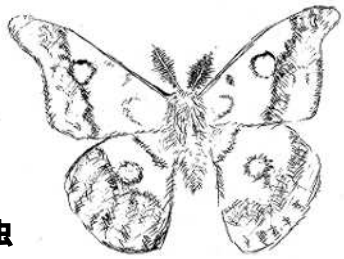
活動発表

11 月 19 日（土）・20 日に開催された市立博物館主催「学びの収穫祭」に初参加、活動発表と展示を行いました。パネル展示では、今年度ツアーの展示発表を行いました。20 日の活動発表では、城山エコミュージアムについて、ツアーの紹介を、運営委員の佐々木徹さんが行いました。初めての参加でしたが、自然・歴史・天文等、幅広い活動に取り組む皆さんと交流することができました。ご来場頂いた皆様、ありがとうございました。

しろやま ミニ図鑑

ウスタビガ （チョウ目ヤママユガ科）

蛹（さなぎ）



成虫

冬に葉がすべて落葉してしまった枝先に緑色の葉のようなものがぶら下がっていて、「おや？」と思うことはありませんか。あの正体はウスタビガの繭です。形がわらで作られている肥料・穀物などを入れた叺（かます）に似ていることからヤマカマスとも呼ばれています。親の正体は、ヤママユガ科の大型のガです。秋も深まった 11 月ごろから発生するガであり、体には多くの毛でおおわれています。私も以前寒い朝にウスタビガのオスをとらえ、間近で観察するために自宅に持ち帰りました。オスの触角は絵のように櫛状（くしじょう）に発達してなかなか立派でした。いろいろな方向から写真を撮った後、そのままにしていたら気温が上がり死んだと思っていたガが急に動き出し、飛び立ってしまいました。寒さの中、動けなくなっていただけだと知って驚いた記憶があります。寒い季節に羽化するのは、天敵が少なくなるなどの利点もあるのかもしれませんね。（山口　雅之）

今後の予定

主催事業

城山エコミュージアムのつどい

日　時：平成 29 年 2 月 26 日（日）
午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
会　場：城山公民館　2 階　大会議室
内　容：トコロジスト（地域の達人）について
講　師：相模原市立博物館
学芸員　秋山　幸也氏
定　員：40 名（先着順）
申込み：城山公民館
電話 042-783-8194【直通】
申込期間：2 月 22 日（水）まで受付
※月曜日、祝日の翌日を除いた
午前 8 時 30 分～午後 5 時

出展事業

◆2月１８日（土）・１９日（日）
相模原市市文化財展

◆3月１１日（土）・１２日（日）
城山公民館まつり
開催中館内に展示しています

城山検定 解説

答え　アオサギ

日本のサギの仲間では最も大きく全長は９３cmほどです。羽の色がやや青みがかった灰色を　していることからアオサギと呼ばれるようになったそうです。　湖沼や池、河原、広い水田などに単独で生息し、魚類の他に両生類、爬虫類なども食べます。境川周辺に生息していて、１０月のツアーの際にはしっかりその存在感を示していました。水辺にすっと立っている姿、悠々と飛んでいる姿、木などに首をたたんで止まっている姿。それぞれ違った趣があります。どんなアオサギに出会えるか楽しみにしながら水辺を散策してはいかがでしょう。（金子　直美）

次号（第３１号）は、３月１５日頃発行予定です

編集後記

城山エコミュージアムも、公民館講座やガイド協力依頼も多くなり、紙面づくりが大変ながら、楽しみでもあります。今号より「身近な石造物」を掲載いたしました。みなさまのご意見・ご要望をお聞かせください。
（宮崎　紀美子）

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会
発　行：相模原市立城山公民館
TEL：042-783-8194【直通】
FAX：042-783-1721
ホームページをパソコンで見る時は
相模原市　城山エコミュージアム　検索
相模原市立城山公民館ホームページ　http：//www.sagamihara－kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html